

1	目指す学校	<ul style="list-style-type: none"> ・深い学びと教養を身に付けさせる「進学指導」を実践する学校（進学指導重点校） ・指導力（作問力）の高い教員が質の高い学習指導を実践し、奉職する喜びと誇りを実感できる学校 ・保護者や地域の方々と協働し、共に活躍し、共に喜びを共有できる学校 ・ICTを活用した教育活動を効果的に展開できる学校 			
	2 中期的目標と方策	(1) 学校経営		(2) 学習指導・進路指導	
3 今年度の取組目標と方策		ア 組織	イ 施設・設備	ア 学習指導等	イ 進路指導
	(ア) 教育職員	(イ) 行政職員			
(1) 教育目標と方策	<p>進学実績の向上に資する深い学びにつながる学習指導を展開するとともに、一丸となって学校経営上の課題解決に取り組む。また、ハラスメントや服務事故のない職場を維持する。</p>	<p>適正な予算編成と執行などの財務管理及び安全な教育環境の維持・管理を徹底するとともに、学校経営を支える企画提案に取り組む。また、ハラスメントや服務事故のない職場を維持する。</p>	<p>施設・設備の維持・管理と共に、その充実・改善を図る。特に教育活動のICT化推進に資する取組を重視して、緊急事態への対応に万全を期すとともに、教育効果の一層の向上を目指す。</p>	<p>主体的・対話的な深い学びを実現するために、「脱教え込み」を推進する。定期考査、学力テストに記述問題、新傾向問題、初見の問題を出題するなど、作問力を高めるとともに、ICTを活用して、より質の高い学習指導を実現する。</p>	<p>将来の進路決定のために深い学びと教養を身に付けさせる「進学指導」を実現する。また、エビデンスを踏まえた進路指導の一層の充実を図り、国立大学進学の実績の向上を図る。</p>
	<p>教育課題の解決を目指し、全教職員が学校経営計画の具現化に取り組む。電子決定率90%以上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エビデンスを重視した学校経営の継続 ・自己申告に学校経営計画の具現化のための目標設定 ・企画調整会議の活性化、各教科との連携が必要な局面で企画調整会議に教科主任が参加する拡大企画調整会議の実施 ・新教育課程のグランドデザインをPTにより策定したことを受け、新たに教育課程委員会を設置して、実務レベルで教育課程を編成 ・校内研修、進路職員会議等による教育課題の共有化 ・教育改革を見据えた教育課題の解決 ・ライフワークバランスの取組の推進 	<p>課題ごとに、管理職と一体となってPT方式によりその解決に当たる。電子決定率90%以上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固定観念や前例にとられない柔軟な発想に基づく、学校経営計画の具現化に資する取組を展開（情報収集、レク資料の作成、企画・要望等に関する説明資料の作成） ・校長研修による若手職員の人材育成とOJT等による実務面での人材育成の推進 ・適正な予算編成・執行と財務管理の徹底 ・施設・設備の安全維持に要する業務の着実な推進 ・進路部、広報部、生徒部の多様な業務を財務面から支援 ・同窓会等との連携強化 	<p>施設・設備の安全確認・点検等を定期的に行うとともに、改修改善を要する施設・設備については増改修要望を利用して学校経営支援センター、又様々な機会を捉えて営繕課と連携して教育環境の維持改善及び向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の安全と教育成果の拡大を図るために、教育庁関係部署並びに地域の関係団体や教育機関と連携して改修改善を推進する。 ・複数年度にわたる増改修の中期計画を作成し、増改修計画に反映する。 ・感染症予防対策のための施設設備の改善充実及び衛生管理用品の十分な確保 	<p>教員の専門性の向上と、国立大学進学に対応した学習指導の展開を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用したオンライン授業の定期的実施を継続するとともに、対面授業におけるICTの活用方法を研究 ・大学入試改革を見据えた自校作成問題の継続、校内学力テスト、定期考査の改善及び目標値の設定（全てに新傾向の問題を導入） ・学習到達目標の明示と生徒に対する教員の期待の表明 ・長期休業期間中の講習を生徒の進路希望別の内容で実施 ・管理職が指定した教員の授業見学の実施、指導教諭による授業公開の活用、特別講習等の継続 ・英語教育推進校としての取組 ・オリンピック・パラリンピック教育の推進 ・不読率の低減 	<p>進路部と各学年が連携して計画的に進路指導を行うとともに、生徒一人一人の実態を教職員全員で把握し、各教科等での適切な指導を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合格大学別の校内学力テスト・定期考査の分析 ・進路職員会議、ケース会議、進路研修会等を定期的に開催 ・長期休業期間中の講習を生徒の進路希望別の内容で実施 ・各学年集会等における進路部主催の講演等の実施 ・望ましい勤労観・職業観を育むキャリア教育の実施（受験指導ではなく進学指導を校是とする）
(2) 重点目標と方策	<p>・企画調整会議での議論の活性化による学校経営の一層の充実・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習から生活、特別活動等までにおける生徒・保護者に係る情報の迅速な共有 ・進学実績向上に資する専門性の一層の向上 ・体罰や個人情報漏えい等の服務事故の防止 ・個々の生徒に応じた学習指導や相談の展開、生徒及び保護者との面談の実施 ・担当部署に関らず、学校行事等の運営への積極的協力 ・Webアンケートの効率化・高度化 ・新学習指導要領を見据えた教育課程の改善（PTの継続・教育課程委員会への年度内の移行） ・在校時間調査の公表によるライフワークバランスの実現に向けた取組の継続（産業界の活用、心身のケアに関する校内研修の実施）とオン来授業日におけるテレワーク・在宅ワークの継続 	<p>・進学実績の向上に資する学習環境整備等の企画提案など学校経営に参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中長期的視点に立脚した自律経営推進予算の編成と効率的な執行 ・積立金等の私費の適正かつ学校経営に則した執行管理 ・副校長等と連携した、校内施設・設備の安全点検と増改修推進のための支援センター、高等学校教育課との折衝 ・進学実績の向上、施設・設備の改善等の重点目標実現を支えるための業務の効率化 ・学校評価アンケートのIT化による効率化・高度化 ・業者選定委員会、安全衛生委員会等を利用した業務改善 ・在校時間調査の公表によるライフワークバランスの実現に向けた取組の継続（産業界の活用、心身のケアに関する研修の継続 ・外苑会、後援会との連携の一層の強化、近隣諸団体等との連携の一層の推進 	<p>・グラウンドの人工芝生化と外構整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館放送設備改修 ・曇さ対策のため体育館、プール天井、特別教室棟準備室窓の遮光フィルム貼付の継続 ・自習室や廊下ラウンジの学習環境の整備 ・小会議室の設置（被服室の一部）と照明LED化・自動化 ・パソコン、プリンター等IT設備の更新及び充実 ・ITによる業務の効率化に伴う教職員の負担軽減とライフワークバランスの実現、テレワークや在宅勤務の継続 ・オリンピック時のストリート装飾の継続及び施設の活用、代替施設の確保 ・手洗い場やトイレ等の水栓のセンサー化しないモノック取り付け ・固定掲示板（建物外）の増設 ・校費削減に伴う校内予算の精選と重点支出の設定 	<p>・令和2年度に培ったオンライン授業のノウハウを継続・発展させるとともに、令和3年度入学生から1人1台のタブレットを購入し、BYODにより校内Wi-Fiを利用して授業で活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のしおり（年間指導計画）の精度向上の継続及び電子化による活用促進 ・授業での学習のねらいの明示、知識・技能を活用する場面の設定、話し合いや発表活動等による主体的な学びの実現 ・校内学力テスト、外部模擬試験の結果分析及び分析に基づく指導の充実・改善 ・教科会等で教育課題の解決に向けた具体的な取組を検討 ・授業評価等の結果を分析し、成果の挙がっている指導方法を教科・学年で共有（クラス単位のデータの公表） ・教員の相互授業参観を年2回（6月、11月）実施 ・オンライン英会話学習の取組状況とGtec、校内学力テスト等との相関の分析、Tokyo Global Gateway（英語村）の活用（1学年で実施） ・教科の特性に応じて学校図書館を活用した授業を展開するとともに、「青山高校の100冊」を改訂し、生徒の不読率を10%未満に低減 ・長期休業期間中等の課題については、学年主任がその総量を適切に管理 	<p>・重点校の使命として、受験指導ではなく、進学指導を推進する。また、進路全体計画の策定と着実な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路職員会議、ケース会議の継続実施 ・校内学力テスト、外部模擬試験の継続実施（校内学力テストの一層の精度向上に向けた各教科の取組を支援） ・模擬試験ごとの志望者リストの作成と希望に応じた講習の実施 ・模擬試験は、学年集会で各教科担当の解説を加えて返却 ・講習及び補習の実施（3年：難関国公立大、1・2年：習熟度別） ・3年：共通テストシミュレーションの継続、共通テスト及び二次試験対応時間割の編成（2学期末から2月末まで） ・オリンピック・パラリンピック東京大会2020の延期を踏まえ、改めて夏季講習の実施や予備校と連携した自習室の開設などに取り組む。なお、部活動等は、原則として期間中も校内において行う。
(3) 数値目標	<p>●旧帝大等を含む 難関国公立大学の現役合格者 35名以上を着実に実現</p> <p>●3年後には、1クラスに7人が 旧帝大等を含む難関国公立大 を目指す学校を実現</p> <p>●将来を見据えた進路を実現する 進学指導の実践</p>		<p>難関国公立等現役合格者数</p>	<p>3年後の現役合格者数</p>	

<p>目指す生徒像</p> <p>(1) 社会の変化に対応できるよう、生涯にわたって学び続ける意欲と態度を備えた生徒 (2) 将来の進路見据え、学びに向かう真摯な姿勢と社会に貢献しようとする志をもった生徒 (3) 切磋琢磨することに喜びを見いだせる逞しさを備えた生徒 (4) 心身の健康管理を適切に行える知識・技能など、社会生活の基礎を身に付けた生徒</p>					
(3) 生徒の健全育成と心身の健康		(4) 特別活動		(5) 地域貢献	(6) 広報活動
ア 健全育成	イ 心身の健康	ア 行事等	イ 部活動		
<p>公共心、道徳心を涵養し、規範意識や社会貢献の意識の醸成を図る。また、いじめの未然防止、自殺防止のための相談・支援体制を強化する。</p>	<p>保健・衛生管理の徹底、心身の健康維持のための相談・支援体制を一層強化するとともに、生涯にわたる健康維持・増進に必要な基礎知識や習慣を育成する。</p>	<p>学校行事をとおして、情操を豊かにするとともに、健全な帰属意識を醸成する。また、ホームルーム活動を通して生徒に期待する行動を示し、互いに高め合う集団を育成する。</p>	<p>運動・文化部活動を奨励し、心身の健康を増進し、文化教養を高めるとともに、両者を融合する取組を行う。また、地域等に貢献する活動をとおり、社会性の涵養を図る。</p>	<p>開かれた学校づくりや地域連携を推進し、生徒が有為な社会人となるための資質を育むとともに、地域の教育・文化の核としての社会的役割を果たす。</p>	<p>教育活動の広報をとおり、地域社会や地域の学校に本校の教育活動への理解を深めてもらうとともに、より学び意欲の高い生徒の募集を目指す。</p>
<p>教育活動の全般をとおり、公共心や道徳心、規範意識や社会貢献の意識を育むとともに、他者を思い遣る人間性を醸成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主自律の精神と民主主義を尊ぶ生徒会活動の指導 ・事件や事故、自然災害等から身を守り、社会の一員として自助共助の行動をとれるよう指導 ・美化活動等の実施 ・社会性の涵養に資する講話や指導の実施 ・いじめ防止対策の実施 ・自習室の利用時間延長と自学自習の習慣化 	<p>学校保健計画に基づき、生徒の心身の健康づくりに資する取組を推進するとともに、個々の生徒に応じた指導・支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防のための保健衛生指導、校内美化の推進 ・カウンセリングや相談体制の強化 ・合理的配慮や支援を必要とする生徒への支援 ・スクールカウンセラーや特別支援教育コーディネータを活用した相談体制の強化 ・いじめ対策委員会や特別支援教育推進委員会をとおり、生徒の情報を迅速かつ的確に把握し、きめ細やかに対応 	<p>学校行事のねらいを達成し、健全な心身を育成するとともに、文化・芸術・運動等に生涯にわたり親しむ素地を培う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・著名人等によるプロフェッショナルを招聘して、生徒の志を高める文化講演を開催 ・文化・芸術に親しむ行事の実施 ・防災に係る活動に親しむ行事の実施 ・体育活動に親しむ行事の実施 ・読書活動に親しむ行事の実施 ・コロナ禍を教訓にICT等を活用した新しい形の学校行事を創造 	<p>部活動への加入を奨励し、文化活動や体育活動をとおり、生涯にわたり健康で文化的な生活を送るための基礎を培う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公式戦の参加奨励や公的発表会等への参加支援 ・外部指導員等の配置 ・生徒の心身の課題に学校全体で対応 ・地域の学校との部活動の展開 ・大学や企業と連携したスポーツ交流活動の展開 	<p>地域行事への参加や地域との交流活動を推進し、積極的に社会に参加・貢献しようとする態度を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の企業等と連携した教育プログラムの開発と試行 ・地域の外国大使館等との国際交流の展開 ・地域や地域企業、関係機関等と連携した活動の展開(連携協定書の締結による継続的な連携の基盤を構築) ・地域の特別支援学校との交流活動の展開 	<p>中学生・保護者等に対する対面・オンライン・動画配信等による学校説明会等により、青高のブランド力と共に、公立学校で学ぶ良さをアピールする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事や部活動等の教育活動の情報発信 ・中学校訪問や学習塾主催の説明会等をとおり、中学生とその保護者に対する情報発信 ・Twitter、学校ホームページ、YouTube「青高チャンネル」等を活用した情報発信と広報活動の充実 ・中学校やPTA主催の説明会等での対面・オンライン・動画配信による広報
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒総会、外苑祭等の生徒会活動の指導 ・いじめアンケート実施(年3回)による未然防止、早期発見 ・いじめ対策委員会、特別支援委員会の定期開催 ・校内美化活動の指導 ・校内施設・設備使用のルールの徹底 ・SNSの適切な活用等の指導、ゲーム等への依存防止の指導 ・あいさつ指導、遅刻防止の指導の実施 ・オンライン期間中の交通集中、テロや凶悪事件、自然災害等から身を守る実践的な学習や高校生の果たすべき役割の自覚の醸成 ・セーフティ教室の実施 ・地域行事やイベントへの参加など、地域との交流を通して、多様性を相互に認め合い、共生できる健全な精神を培う ・週2日、外部委託等による自習室管理を実現、土曜日の開放時刻を午後8時まで延長(保護者の同意と検閲等の生徒による管理) 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職を含め、教職員が気付いた生徒に係る情報は、企画調整会議・特別支援教育推進委員会等で必ず共有し、学校としての具体的な支援等を実施 ・「様子を見る」は禁句とし、迅速に対応して、「何もなくてよかった」という共通認識を職場内で確立 ・アレルギー疾患等生徒の個別の状況把握と共有化 ・生徒検診等における全校協力体制の継続 ・1学年全員面接、教員へのコンサルテーション等スクールカウンセラーの活用 ・教職員対象の保健研修会等の実施 ・発達障害の理解、教員のカウンセリング能力の向上と相談体制の充実 ・スクールカウンセラーを活用し、合理的配慮や支援を必要とする生徒への支援 ・ヤングケアラーの正確な把握を行い、適宜有効な支援を行えるよう、いじめ対策委員会等を活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度は、科学や経済分野で活躍するプロフェッショナルによる文化講演を開催 ・文化部活動推進校として、全国高等学校総合文化祭に参加 ・国立競技場でのオリンピック競技観戦 ・防災訓練・避難訓練の実施 ・日本の伝統文化の理解と継承を目的とする修学旅行の実施 ・健康維持とスポーツに親しむ基礎を培う体育祭の実施 ・外苑祭における演劇等の質の一面の向上 ・校内ヒピリオパタルの継続実施 ・Tokyo Global Gateway(英語村)を活用した英語体験学習の展開(1年生)12/15 ・延期になった80周年記念式典の挙行(11/5日本青年館) ・映像クリエーションを念頭に、新しい学校行事の形を創造 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の再任教員、非常勤教員経験者を、部活動外部指導員や3年生の特別講習の講師として活用 ・事故等の未然防止と万一の場合の適切な迅速な対応の徹底 ・顧問教諭や関係教諭、スクールカウンセラー等による面談等の実施 ・オンラインや動画配信を含め、地域の小中学校、特別支援学校との部活動をとおしての生徒同士の交流活動の継続 ・進学指導重点校の要として、都内の難関国公立大学との部活動をとおしての交流活動・キャンパスツアーを復活(オンラインを含めて実施) ・スポーツマインドの育成や技術指導など、地域のスポーツ施設や団体と連携した部活動の展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・「進学指導」につながるキャリア教育を地域企業(日本オラル)と共同で推進、生徒のための教育プログラムの開発とその試行により「志」を育成し、将来を見据えた進路を実現する進学指導の実践 ・地域の諸団体と連携した地域行事や活動に関する探究活動の実現 ・ストリートファッションや交流活動の継続 ・外国大使館等と英語による講演や著名人・知識人等を招聘した文化講演を実施 ・地域の特別支援学校との交流活動の展開 ・祭礼等の地域行事への参加や地域の清掃活動などの実施 ・地域や地域の企業、関係機関と連携した防災訓練の実施(帰宅困難者の受け入れの「避難所運営ゲーム」を活用した実践的訓練) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの充実及びTwitter等を活用し、各種調査のエビデンスの公表や行事や部活動等の教育活動の情報を公開し、教育活動を常に改善する原動力に変える ・学校説明会、入試問題解説会等をオンライン開催やSNSでの発信も交え、年8回以上開催 ・オンライン開催も含め、近隣中学校等への出前広報活動の展開 ・中学生対象の体験授業(サマースクール)の実施 ・オンライン開催も含め、塾等への出前広報活動の復活 ・YouTube「青高チャンネル」やDVDを活用した学校PRの展開 ・外苑前・青山地区の地の利を活かした生徒募集活動の展開(ブランド力のあるデザインの開発:マフラータオル等) ・中学生の体験授業の受け入れ

- 全てのホームルームでの **話し合いや発表活動**を展開するとともに、生徒に対する **学習や進路に関する教員の期待を定期的に表明 全クラス8割以上**
- 生徒の学校生活における意欲と **学力の向上**を実現
- 優れた取組を全体で共有

生徒の学習や進路に関する期待を、担任が定期的に示すことで、生徒の学習意欲と成果が向上する。

